



東北商店株式会社
www.tohokushoten.com

被覆線・雑品
非鉄金属買収

貿易業

東北商店株式会社
□本社
大阪市住之江区新北島5-3-16
TEL: 06-6683-8828
□南港事業所
TEL: 06-6613-8838
□千葉支店
TEL: 0436-76-7277

グループ会社

□東北エント株式会社
兵庫県姫路市網干区浜田1585
TEL: 079-271-5025
www.tohoku-ent.com
□東北ライド株式会社
愛知県海部郡伊賀江町大字蟹江新田
字大海用172番
TEL: 0567-94-5688

日刊メタルレポート

発行所

株式会社 日刊金属新聞社

本社 大阪府城東区蒲生1-3-7
電話 (06) 6932-5443 代表
購読料 半カ年44,100円(前納) 3カ月22,050円

自動車
販売
マイナス幅が二ケタ台に

新設住宅着工戸数は二ケタ増

橋本金属 橋本健一郎氏リポート①

【概況】六月前半はECB（欧州中央銀行）による利下げ観測や、インドネシア・グラスベルグ銅山の落盤事故からの操業再開の延期などプラス材料はあったが、引き続き米FRBによる金融緩和縮小懸念や、四月のユーロ圏小売売上高が〇・五%減と予測を下回ったことから、中国貿易統計で輸出が1%増と予測の七・三%増を大幅下回ったことから、LME銅相場は七、〇四五ドル（セツル）と前月最終価格より二八五ドル下げての前半締めとなった。

後半は中国中央銀行による金融引き締めで短期市場の金利が七%から一四%まで上昇したこと、六月HSBCのPMI指数が四八・七と二カ月連続で五〇を下回ったことなどから、一時六、六三〇ドル台まで暴落するも、中国当局が金利を適正水準まで誘導するとのコメントや、六月の米ISM製造業指数が五〇・九%と予測を上回ったこと、四月のケースシラー住宅指数がプラス一二・二%と七年ぶりの高水準だったことから下げ幅を圧縮し、七月二日現在、前半締めから一二八ドル下落の六、九一七ドル、銅建値七一万円のスタートとなった。

■前月の経済指標

◆自動車生産台数

日本自動車工業会によると、自動車生産台数は前年比六・二%減の七三万二、七一一台であった。

◆自動車販売台数

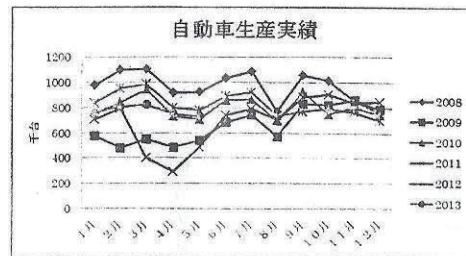
日本自動車販売協会連合会によると、自動車販売台数（軽除く）は前年比一五・八%減の二六万六、九一一台。

（四画へ続く）

◆自動車生産台数

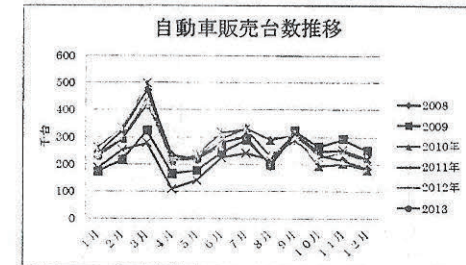
	3月	4月	5月
生産台数	82万3145台	74万7730台	73万2714台
前年比	-16.4%	-6.5%	-6.2%
	4月	5月	6月
販売台数	21万3165台	21万9099台	26万6913台
前年比	+2%	-7.3%	-15.8%

自動車生産実績



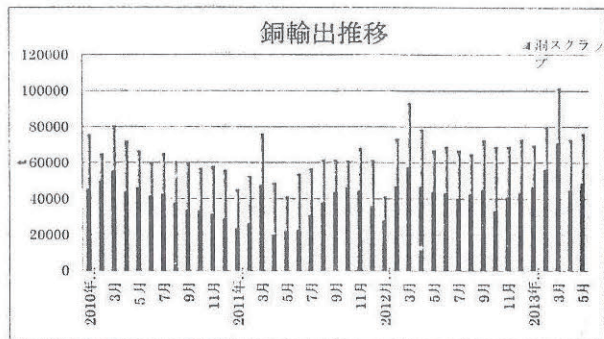
出典 日本自動車工業会

自動車販売台数推移



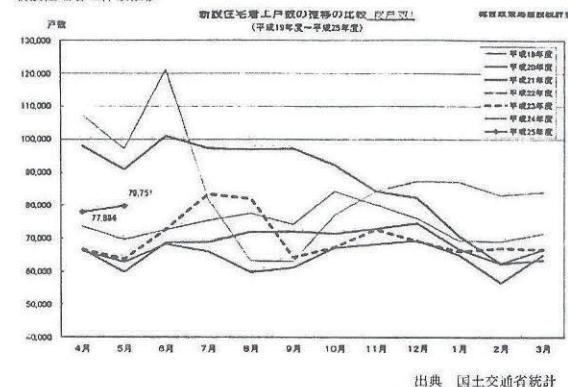
出典 日本自動車販売協会連合会

輸出	3月	4月	5月
電気銅	7万1千t	4万4901t	4万8578t
前年比	+23%	-4.1%	+10.7%
スクラップ	3万845t	2万8275t	2万7933t
前年比	-14.2%	-11.7%	+21.4%
輸出推移			



◆貿易関連指標
財務省貿易統計によると輸出は前年比で電気銅が一〇・七%増の四万八、五七八t、スクラップが二一・四%増の二万七、九三三t。

	3月	4月	5月
新設住宅着工数	7万1456戸	7万7894戸	7万9751戸
前年比	+7.3%	+5.8%	+14.5%
新設住宅着工件数推移			



◆新設住宅着工戸数
国土交通省統計によると、新設住宅着工戸数は前年比一四・五％増の七万九、七五一戸であった。

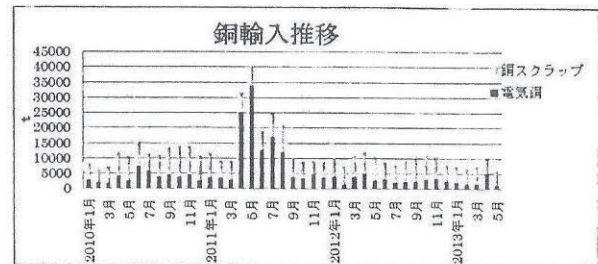
(一面より続く)

伸銅品生産は

銅の輸出二ケタ増、輸入は急減

輸入は電気銅が前年比五三・三%減の二七〇t、スクラップ三八・三%減の四、八五一t。

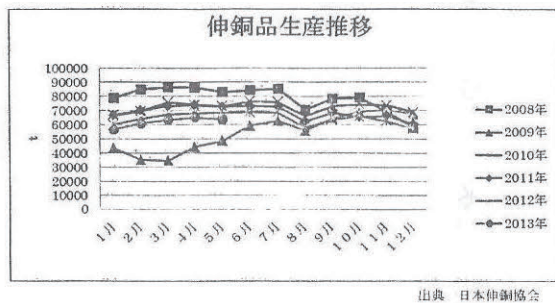
輸入	3月	4月	5月
電気鋼	1618 t	5053 t	1270 t
前年比	-57.5%	+1.7%	-53.3%
スクラップ	5850 t	5170 t	4851 t
前年比	-18.2%	-26.7%	-38.3%



出典 財務省 貿易統計

【前月の国内指標】

日本伸銅協会発表の伸銅品生産推移（速報）によれば、前年比二・五％減の六万三、六八〇t。



日本電線工業会発表の出荷速報（推定）は、前年比二％増の五万二、九〇〇トであった。（六面に続く）

(六面に続く)

(四面より続く)

銅需 給
内需は様子見の一服モードに

銅相場、米中の動向が力ギか

と、こちらも円安の恩恵から、自動車の減少幅の拡大が影響したものの、円安効果から全体として増加したとの見解。

輸出に関しては、電気銅輸出が前年比一〇・七%増の四万八、五七八tと大幅増。銅スクラップは二・四%増の二万七、九三三t。

内需の一服と円安による採算改善から。

輸入は電気銅が五三・三%減の、一七〇t。

スクラップは三八・三%減の四、八五t。

電気銅、スクラップとも内需の一服や円安による割高感から大幅減少。

【銅需給に関して】

住宅関連は新設住宅着工数が前年比一四・五%増と九カ月連続増加、分譲マンションが三・三%増と絶好調、ただ自動車は生産が九カ月連続で前年割れが続ぎ内需不安から不透明。

六月の国内販売台数も一五・八%減と大幅悪化。為替が再び九八・一〇〇円近辺で推移していることから先行きに黄信号。

内需は様子見の一服モード。

【銅価格に関して】

米国、中国の金融政策に、喜一憂する事が予測される。

米国の金融緩和と縮小はこのまま失業率が七%台を推移していれば、購入規模を縮小する可能性が高い。中国の金融政策に関しては一旦引締めに動いたものの、金利が跳ね上がった事から即、貸し出しを再開した経緯を考えれば、あまり危惧する必要もないが、中国当局の基本スタンス（バブルつぶし）は明確化されたことからこれまでのような資金調達は期待できず、やや引き締め気味になるとの予測から。

上値は六月前半高値付近の七、四〇〇ドルを予測。

下値は米国金融緩和の縮小が行われた場合や中国の引締めが行われた場合、再び失望感から暴落する可能性が高く、六月最安値からもう一段安（一〇〇ドル）の六、七〇〇ドルを予測。

為替はAve九八円との予測から、銅建値に関しては六九〇〇〜七六〇〇円程度と予測している。

◇KLT M ず相場

二日 一九・八〇一

四五

三日

二〇・一〇〇

六〇

米ドル
トン
米ドル
トン

【見通し】

六月は、中国の金融引き締め観測と米国金融緩和と縮小観測に一喜一憂した月となった。中国中央銀行による金融引き締めで短期市場の金利が七%から一四%まで上昇したことや、FOMC後のバーナンキ発言で金融緩和と縮小が近いとの認識から。

自動車生産は前年比六・二%減の九カ月連続マイナス。国内向け、輸出向け生産が共にマイナスへ。

販売の方はついに二桁悪化前年比割れの一五・八%減。貨物車、乗用車が共にマイナスだったことから。

新設住宅着工戸数は先月に続き九カ月連続増加の前年比一四・五%増（季節調整済み前月比九・四%増）の七万九、七五・一戸。今月も唯一堅調な住宅関連。分譲マンションがプラス三三%と大幅増。アベノミクスによる長期金利の上昇に伴う住宅ローン金利など今後の動向に注目。

伸銅品生産量は前年比二・五%減の六万三、六八〇tと七カ月連続マイナス。ただ自動車、スマホ関連の板条は改善。輸出も三・九%増と円安を追い風に堅調に推移していることもあって、四カ月連続で六万t台乗せ。

銅電線出荷量は、前年比二・三%増の五万二、九〇〇tと六カ月ぶりプラス。うち、電力、建設・電販は三・三カ月連続プラス。機械・自動車は九カ月連続マイナス。輸出八・七%増